



## 情報デザインで地方が抱える深刻な過疎化や人口減少を止められるか

講師 杉澤 愛美

- 研究分野：デザイン学 観光情報学 情報学
- 研究キーワード：デザイン デザイン思考 デザイン教育 学習支援システム

### 研究内容

インターネットの普及とともに、私たちは大量の情報を収集することが可能になりました。一方で、この膨大な情報量の中、必要な情報を必要な人に届けることは容易ではありません。このような背景から、近年、情報デザイン力が重要視されています。情報デザインとは、関連するあらゆる情報を収集・再構築し、受け手に理解しやすい表現に変換する技術のことを指します。情報デザインを行うにはある程度の訓練や実践を経た専門家が必要があります。しかし、中小企業や地方自治体などでは人材が不足している場合も多く、ブランディングやプロモーション等の場において、課題を抱えていることも多いのが現状です。本研究では、情報デザインによる課題解決をテーマとした、産学官連携型PBL (Project Based Learning) を通じて、企業・地方自治体の課題解決、および情報デザイン力を持つ人材育成を実施しています。成果物はグラフィックデザインによる制作物が主となりますが、情報を伝える相手によって、動画制作やSNSの活用など様々なアプローチを試みています。

また、その他観光産業促進のためのITコンテンツ開発、デザイン教育支援コンテンツの開発など、情報を活用した観光振興、教育支援も行っています。



### 社会実装の可能性

企業・地方自治体が抱える課題を情報デザインにより解決することができます。また、より実践的な情報デザイン力を持った人材を育成可能となるほか、学生が地域・社会への理解を深めることができます。

### 研究の意義

情報デザインで企業・地方自治体等の課題を解決し、観光振興・地域支援を推進します。また、産学官連携を通じて人材育成を行い、地域活性化や社会貢献意識の醸成を目指す意義ある取り組みです。

### 地域社会へのアピールポイント

本研究は、企業や地方自治体が抱える課題を情報デザインの観点から解決することを目指しています。地方自治体では過疎化や人口減少等が課題となっていますが、地域の魅力や制度が十分にターゲットへ伝わらず、効果が発揮されない事例も少なくありません。本研究では、情報伝達方法を改善し、これらの課題解決に寄与します。また、地方の中小企業が直面する商品やサービスのプロモーション課題の解決を通じ、地域経済の活性化も期待できます。さらに、情報デザイン力を持つ人材を育成し、地域や社会への理解を深める機会を提供します。この取り組みは、各地域の関係人口の増加にも貢献すると考えられます。

### 今後の展望

実践的なプロジェクト活動に入る前に必要となる、基礎的な情報デザイン力向上を目的とした教育支援の仕組み構築を目指します。特にマーケティングに用いられるフレームワークを活用した論理的思考力の育成や、AI画像生成の伴うプロンプトエンジニアリング教育を重点的に支援する予定です。また、産学官連携型PBLをより広範囲で展開し、多様な業界や地域への適用を進めることで、課題解決の可能性を広げます。